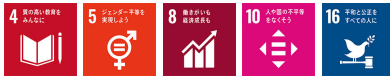


商業科教育法

Methodology of Teaching Business Education

 IMAI Fumitoshi
 今井 文俊

科目ナンバリング：UTL-3-201-03



■授業の目的及び到達目標

本授業は、商業科の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容の体系的な理解と様々な学習指導理論を深化させ、必要に応じてICT機器を活用し、授業場面で役立つ「わかる」授業設計の方法を身に付けることを目的とします。さらには、学校現場で活躍する商業科教員と遜色のない、能力と態度を身に付けることを到達目標とします。

■授業計画

〔前期〕

- 商業教育の歴史と変遷(1)
明治以降の商業教育の歴史を時系列で概観したのち、第二次世界大戦下の商業教育と経済発展をキーワードに議論し学修を深めます。
- 商業教育の歴史と変遷(2)
第二次世界大戦後から今日に至る学習指導要領の変遷を辿ったのち、商業教育の不易と流行について議論し学修を深めます。
- 商業教育の歴史と変遷(3)
学習指導要領の平成21年度改訂と平成30年度改訂の相違点を概観したのち、これから求められる商業教育像について議論し学修を深めます。
- 各科目の目標と内容の構成及び取り扱い等
商業科目の各分野の目標と、内容の構成及び取り扱い等について概観したのち、商業高校の教育課程を教校取り上げ、作成上の意図について議論し学修を深めます。
- 商品開発と流通 学習指導案の作成方法(1)
指定した学習内容をどう教えたかを議論したのち、学習指導案の作成にあたってのルールや手順について確認します。
- 商品開発と流通 学習指導案の作成方法(2)
前回の授業で得た着想をもとに学習指導案、発問例、板書例を作成します。
- 商品開発と流通 模擬授業(1)
従来からの座学による授業を基本に据えて受講生が模擬授業を行い、高校生の認識や思考、学力に合致した授業かを議論し学修を深めます。
- 商品開発と流通 模擬授業(2)
引き続き模擬授業を行ったのち、今度は教師の視点から発問方法や板書方法について議論し学修を深めます。
- 目標準拠評価による観点別評価
平成30年改訂で求めている目標準拠評価による観点別評価を理解したのち、学習活動にどう活かすかを議論し学修を深めます。
- ビジネス基礎 学習指導案の作成方法(1)
指定した学習内容をまず予習してその内容を発表したのち、授業として教えるなら何が足りないのかを議論し、予習と教材研究の違いについて学修を深めます。
- ビジネス基礎 学習指導案の作成方法(2)
前回の授業を踏まえて学習指導案、発問例、板書例を完成させ、加えて評価の観点について検討をします。
- ビジネス基礎 模擬授業(1)
受講生が模擬授業を行ったのち、高校生の視点から発問方法、板書方法、観点別評価について議論し学修を深めます。
- ビジネス基礎 模擬授業(2)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、教師の視点から発問方法、板書方法、観点別評価について議論し学修を深めます。

〔後期〕

- マーケティング 学習指導案の作成方法(1)
ICT機器の活用の長所、短所は何かを議論したのち、アイデアを出し合い学習指導案の作成に役立てます。
- マーケティング 学習指導案の作成方法(2)
発展的な学習の在り方を探求しつつ、安易なICT機器の利用になっていないかを点検し、学習指導案、発問例、授業プリントを完成させます。
- マーケティング 模擬授業(1)
受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器の活用が授業の質を高め教育効果の向上に寄与していたかを議論し学修します。
- マーケティング 模擬授業(2)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器の活用が授業の質を高め教育効果の向上に寄与していたかを議論し学修します。
- マーケティング 模擬授業(3)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器の活用が授業の質を高め教育効果の向上に寄与したか議論し、他の受講生から自己の成長に役立つコンピテンシーを見極めます。
- 簿記 学習指導案の作成方法(1)
生徒の知識の習得に向けICT機器を活用して動画を作成することとし、さらに思考力、判断力、表現力を高める工夫について議論し学修します。
- 簿記 学習指導案の作成方法(2)
前回の議論を踏まえて発展的な学習の在り方を探求し、動画教材、学習指導案、発問例、授業プリントを完成させます。
- 簿記 模擬授業(1)
受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器を活用できたか、思考力、判断力、表現力を高める工夫ができたかを議論し学修します。
- 簿記 模擬授業(2)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器を活用できたか、思考力、判断力、表現力を高める工夫ができたかを議論し学修します。
- 簿記 模擬授業(3)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器を活用できたか、思考力、判断力、表現力を高める工夫ができたかを議論し学修します。
- 簿記 模擬授業(4)
引き続き受講生が模擬授業を行ったのち、ICT機器を活用できたか、思考力、判断力、表現力を高める工夫ができたかを議論し、他の受講生から自己の成長に役立つコンピテンシーを見極めます。
- 1年間の振り返りと試験問題の作成
1年間の取り組みを振り返るとともに、商業科目の試験問題を作成するコツを修得し、実際に作成を試みます。
- 試験及びフィードバックとしての解説
商業教育の歴史や変遷、学習指導要領に示された学習内容、目標準拠評価による観点別評価の意義等について考查し、フィードバックとしての解説を通じて1年間の取り組みの成果を確認します。

■授業の方法

知識として伝えるべき内容は講義形式で行いますが、受講生間の議論を通じて学修の深化を図ります。模擬授業は回を重ねるごとに要求水準を高く組んでいるので、求めるレベルに応じた学習指導案、発問例、板書例（授業プリント）、ICT教材を作成できるようにしていきます。

■予習・復習

予習では商業科の知識の修得に努めるとともに、模擬授業に向けて徹底した教材研究を求めます。また、復習では振り返りを重視し、模擬授業等を体験する中で理解できたこと、気付いたことをまとめてください。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

意見発表など授業貢献度 30%、課題（学習指導案、板書例、発問例、授業プリント等の提出物） 30%、模擬授業 20%、試験 20%で評価します。学期試験のフィードバックは、試験終了後の授業を通して行います。

■教科書・参考書

教科書：文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年）解説 商業編」、「商業科教育論」（実教出版、2019年）、文部科学省検定済みの高等学校商業科教科書

■関連する科目

本授業は、商業科教員免許状取得のための必修科目です。他の教職課程の科目同様、確実な修得を望みます。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

埼玉県の公立高校で、29年間にわたり教員を務めました。